



2023

環境報告書

ENVIRONMENTAL REPORT



ダイニク 株式会社

# 目次

ごあいさつ P.1

会社概要 P.2

環境基本方針 P.3

環境課題への取組み P.4

環境目標・実績 P.5

2022年度環境負荷低減の取組み P.6~P.10

気候変動対応・省エネルギーの取組み

省資源・廃棄物削減の取組み

- 水資源の有効活用
- 廃棄物削減の取組み
- 廃プラスチック削減の取組み

化学物質排出削減の取組み

マテリアルフロー P.11

環境関連商品 P.12

環境配慮商品紹介 P.13

2022年度拠点ごとの活動状況 P.14~P.25

## ダイニックは、製品の開発から廃棄まで 常に環境保全を考えた企業活動を推進しています。

暮らしを「豊かに」そして「快適に」彩ることがダイニックのテーマです。

ダイニックグループは、住みよい地球に向かうための環境基本方針を常に心掛け、生物多様性と気候変動に伴うリスク対応を重要課題として認識し、技術と環境との調和を踏まえた、環境にやさしい企業活動に日々努めております。

国内にある5つの工場では、すでに省エネルギー設備導入や再生可能エネルギーの利用推進などカーボン・ニュートラルに向けた活動を行ってきました。これからもこの活動を強化し継続していくとともに、生物多様性に配慮した商品設計や保全活動を推進してまいります。

1987年に開館した天究館では、多賀町と協力し天体観望会やプラネタリウム上映を通して環境啓発活動を継続しています。

国内外のグループ会社におきましても、省エネルギー設備の導入や生物多様性保全の取組みなどを継続して推進しております。

2022年には、気候変動に対する企業の取組み等を分析・評価する非政府組織（NGO）であるCDPへ初めて挑戦し一定の評価を得ました。

今後も信頼される企業であり続けるために、次世代に向けて、全従業員が一丸となって環境対策への取組みを強化し、地球環境と生活環境に配慮した環境関連商品の開発に取り組み、地球環境保全の実現に貢献する企業活動を推進してまいります。



令和5年8月

ダイニック株式会社  
代表取締役社長

小田英伸

# 会社概要

商号	ダイニック株式会社 DYNIC CORPORATION
創立	1919年8月18日
資本金	57億9,565万円
株式	東京証券取引所スタンダード市場
売上高	296億円（グループ含み415億円） （2023年6月27日現在）
従業員	620名（グループ含み1,219名） （2023年6月27日現在）
本社	東京本社：〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル 電話 03-5402-1811（代） FAX 03-5402-3146
	京都本社事務所：〒615-0812 京都市右京区西京極大門町26 番地
営業所	札幌、東京、名古屋、大阪、福岡、香港、シンガポール、米国、タイ、英国、中国、インドネシア、チェコ（グループ含む）
工場	滋賀、埼玉、王子、富士、真岡、米国、タイ、英国、中国、インドネシア、チェコ（グループ含む）
関連会社	国内7社、海外11社
事業内容	書籍装幀用クロス、印刷・ビジネス用各種クロス、パッケージ用化粧クロス、銀行通帳用クロス、フィルムコーティング製品、表示ラベル用素材、複合フィルム、プリンターリボン、名刺プリンタ、文具紙工品、磁気関連製品、有機EL用水分除去シート、カーペット、壁装材、天井材、ブラインド、自動車内装用不織布・カーペット、フィルター、産業用ターポリン、テント地、雨衣、産業用不織布、容器密封用アルミ箔・蓋材、各種紙管紙器、パップ剤用フィルム加工、食品鮮度保持剤、接着芯地、ファンシー商品、商品等運送・保管他（グループ含む）

# 環境基本方針

地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題が深刻化するなか、カーボン・ニュートラルや循環型社会の構築に取り組むことが求められています。ダイニック株式会社は「環境基本方針」を以下のとおり定め、環境対応に取り組んでおります。

## 【環境基本方針】

ダイニック株式会社は、環境保全への取り組みを重要な経営課題と認識し、国内外の環境関連法規制を遵守するとともに、環境負荷のより少ない製品を市場に提供していくことがメーカーとしての責任と考えている。その考えを具体的に実行するため、開発、資材調達、製造、販売、流通、及び廃棄のそれぞれの段階で、以下の項目を徹底推進する。

- (1) 製品のライフサイクルを通じ、事業活動のすべての段階で環境負荷低減と、生物多様性保全等への配慮に努める。
- (2) 省エネルギー、廃棄物削減に積極的に取り組み、環境汚染の防止に努める。
- (3) 有害な化学物質により環境を損なうリスクを低減する。
- (4) 環境に関する事業活動についての情報を開示し、地域社会等と協調しながら環境保全活動を積極的に推進する。
- (5) 環境保全に対する教育を徹底し、環境への意識向上を図る。

ダイニック株式会社  
代表取締役社長 山田 英伸

## 環境負荷低減の取り組み

製品の設計段階から、環境負荷の少ない素材、再利用しやすい素材を考慮することはもちろん、エネルギー負荷の少ない製造方法や、省資源、長寿命化を考慮した製品設計を行なっています。製造段階では、日々の製造現場において、省エネルギー・廃棄物削減に努め、環境負荷低減に取り組んでいます。販売段階では、当社製品をご利用いただくことで、お客様の環境負荷が低減できる環境関連商品を提案し、地球環境保全に貢献する取り組みを行なっています。

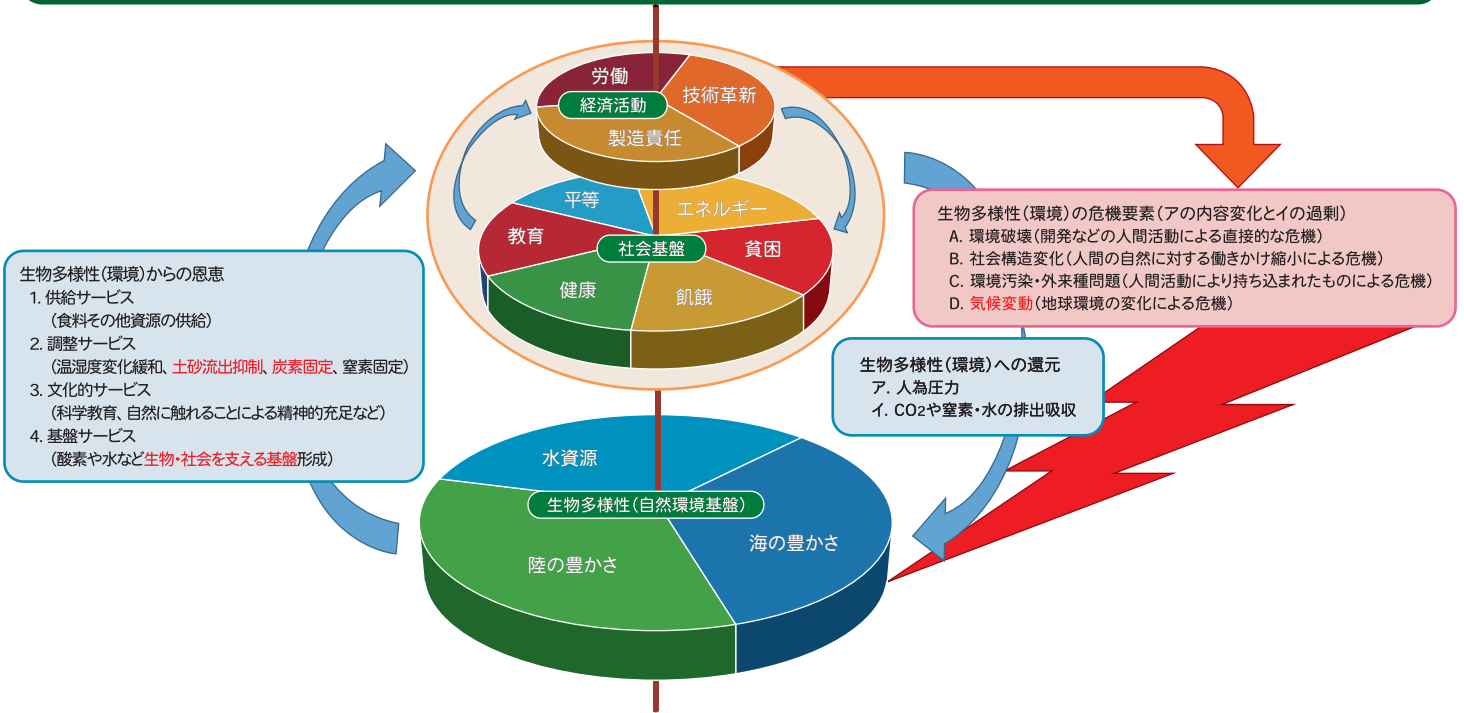
## 気候変動対応・生物多様性保全の取り組み

ダイニック全体で省エネルギー活動に取り組み、二酸化炭素の排出を削減することにより、気候変動対応を推進しています。また、生物多様性保全についても、持続可能な社会構築に貢献し、地球環境と共生できる企業を目指して取り組んでいます。



# 環境課題への取組み

ダイニック株式会社は、「生物多様性から社会への恩恵」と「社会・経済から環境への還元」のバランスを意識し、持続可能な社会実現における環境課題を次のように考えています。



環境課題	とるべき行動
A. 環境破壊 (開発など人間活動による直接的な危機)	最終処分量削減 (P8) 遊休地利用時の環境影響事前評価など
B. 社会構造変化 (人間の自然に対する働きかけ縮小による危機)	バイオマス素材の適切な利用など
C. 環境汚染・外来種問題 (人間活動により持ち込まれたものによる危機)	廃棄物削減 (P8) 排水・排気ガスの適正管理 (P7) P R T R 対象物質使用削減 (P10) 資源循環 製品含有化学物質管理など
D. 気候変動 (地球環境の変化による危機)	省エネルギー (P6) 再生可能エネルギー導入など

2022年度はA. からD. の4課題のうち「気候変動」に関連し、当社の活動状況のCDP(気候変動に対する企業の取組み等を分析・評価する非政府組織)登録へ初めて挑戦しました。

その結果、「A」～「D-」までの8段階において、「C」と評価されました。

評価結果を分析し、活動内容の充実と評価改善を目指します。

気候変動以外の課題についても、取組みを強化していきます。

# 環境目標・実績

ダイニックでは 環境中期目標（2021 年度～ 2023 年度）を設定し、推進していきます。  
2022 年度取組み実績は、以下の通りです。

## 2022 年度の環境目標・実績一覧

取組項目		単位	2022年度				2023年度 最終年目標
			目標	実績	自己 評価	関連 ページ	
気候変動対応 省エネルギー	CO2 排出量削減	t-CO2	2013年度比 9%削減	-11.8%	○	P 6	2013年度比 10%削減
	エネルギー 原単位の改善	原油換算 ℓ/km	2017年度比 5%改善	+1.2%	×	P 6	2017年度比 6%改善
省資源	水の使用量 削減	千t	2017年度比 5%削減	+4.5%	△	P 7	2017年度比 6%削減
廃棄物の3R	廃棄物量 の削減	t	2017年度比 5%削減	+1.1%	×	P 8	2017年度比 6%削減
	産業廃棄物 最終処分量 の削減	t	2017年度比 5%削減	+35.7%	△	P 8	2017年度比 6%削減
環境汚染防止	PRTR対象 化学物質 排出量削減	t	2016年度比 30%削減	+5.1%	△	P 10	2016年度比 35%削減
環境関連商品	対売上比率 の向上	%	2020年度比 1.0%向上	-1.8%	△	P 12	2020年度比 1.5%向上

<自己評価凡例>

◎：目標の2倍以上達成

○：目標を達成

△：目標は達成できなかったが、昨年よりは改善された

×：目標に向けた改善ができなかった

# 2022年度 環境負荷低減の取組み

## 気候変動対応・省エネルギーの取組み

生産活動ではエネルギーを消費し、製品を造りだしています。これに伴い、温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>を排出します。CO<sub>2</sub>の排出削減を目的に、生産工程でのエネルギー使用量の削減に取り組んでいます。各種省エネ設備の投資として、工場天井照明のLED化、空調機やチラーの高効率型への変更、コンプレッサーのインバータ化、蒸気配管改修、自家消費型太陽光発電設備の導入等を計画的に実施しており、また設備の新設や改善などのエネルギー効率を良くする生産性改善も実施してきました。

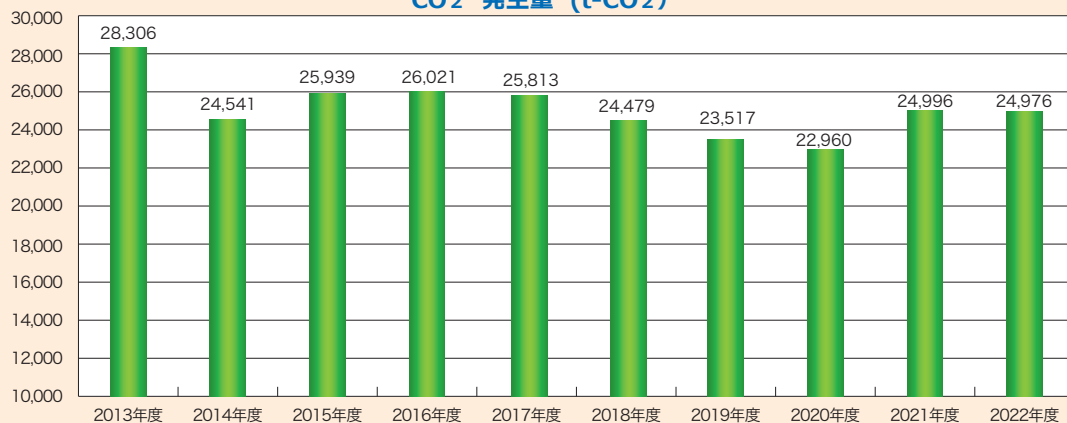
2022年度は生産数量が前年度比1.3%減少したのに対し、エネルギー使用量が2.2%増加し、結果としてエネルギー原単位は前年度比3.6%の悪化となりました。一方、CO<sub>2</sub>排出量は前年度比0.1%減少しています。

2023年度も、生産性改善や省エネ設備投資などの改善を進め、環境負荷低減に取り組んでゆきます。

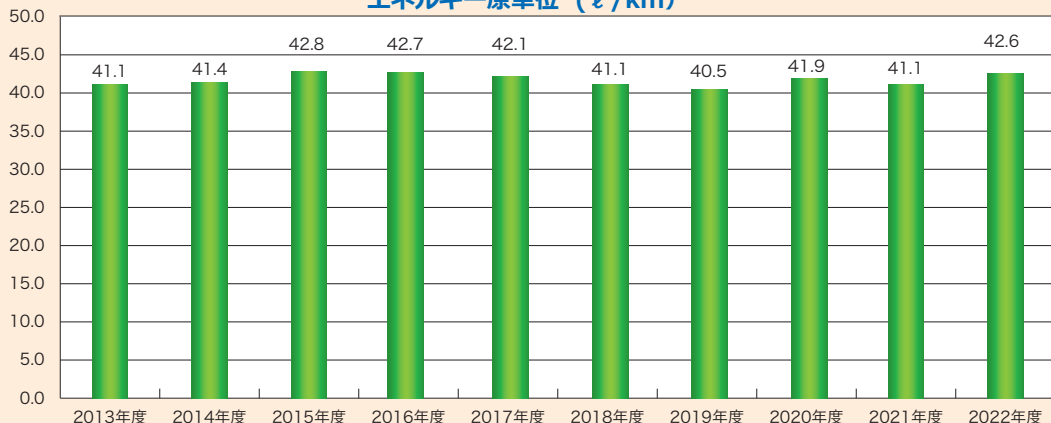
### 原油換算エネルギー使用量 (kℓ)



### CO<sub>2</sub> 発生量 (t-CO<sub>2</sub>)



### エネルギー原単位 (ℓ/km)





# 2022年度 環境負荷低減の取組み

## 省資源・廃棄物削減の取組み

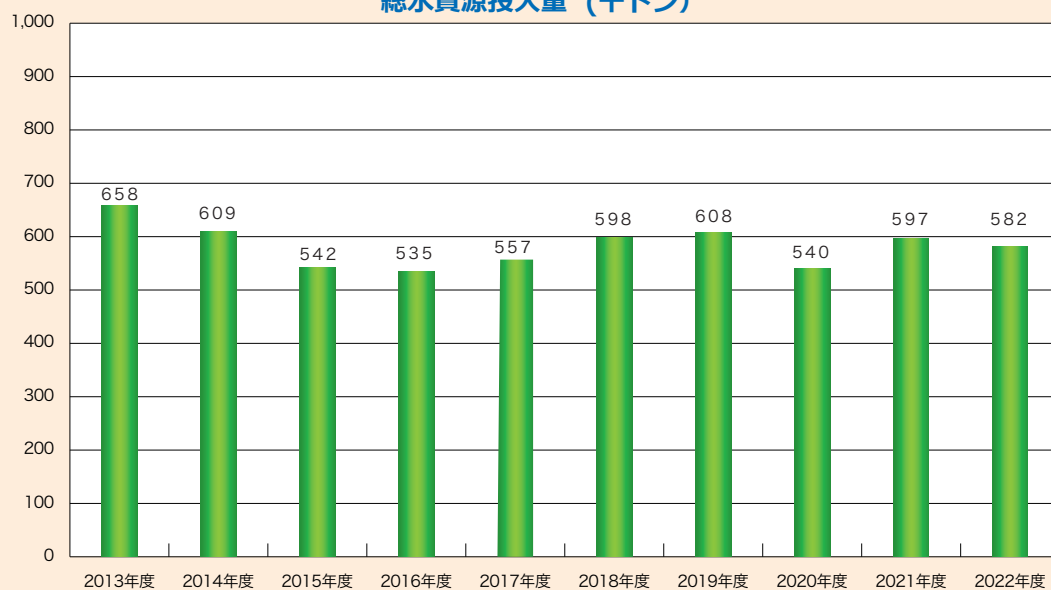
### ● 水資源の有効活用

生産工程で使用する洗浄水や、冷却水などのリサイクルを推進し、水資源の有効活用に取り組んできました。

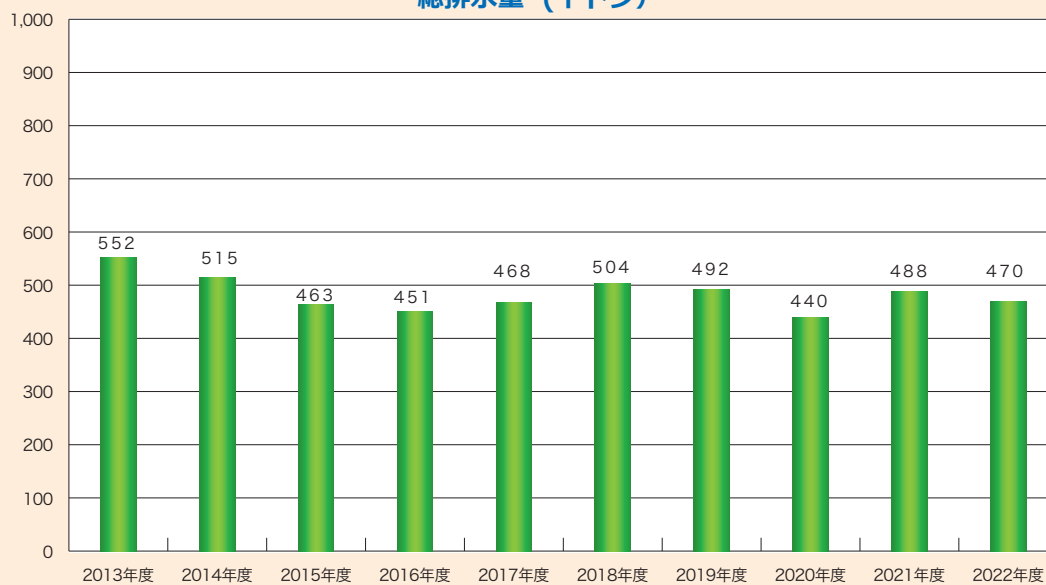
2022年度の総水資源投入量は前年度比97.4%、総排水量も前年度比96.4%と減少しました。

2023年度も、無駄な水資源の利用を見直し、総水資源投入量を抑制するべく活動します。

総水資源投入量 (千トン)



総排水量 (千トン)



# 2022年度 環境負荷低減の取組み

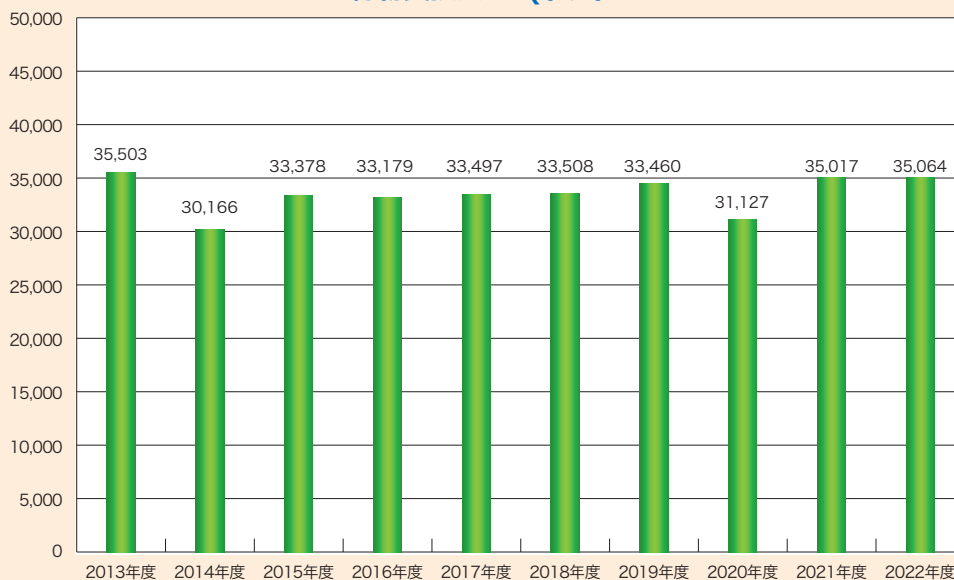
## 省資源・廃棄物削減の取組み

### ● 廃棄物削減の取組み

地球環境保全のため、廃棄物の削減に取り組んでいます。廃棄物の発生を抑えるだけでなく、資源の有効利用の観点から、リユース・リサイクルを進めてきました。2022年度の総物質投入量は、前年と同水準の35,064トンでした。総廃棄物量は前年度比4.3%増の5,122トンとなりましたが、廃棄物最終処分量は前年度比18.8%減と大幅に減少できました。

2023年度は、廃棄物最終処分量減少を継続するために、排出抑制と再資源化の推進に取り組んでいきます。

#### 総物質投入量 (トン)



#### 廃棄物量 (トン)



# 2022年度 環境負荷低減の取組み

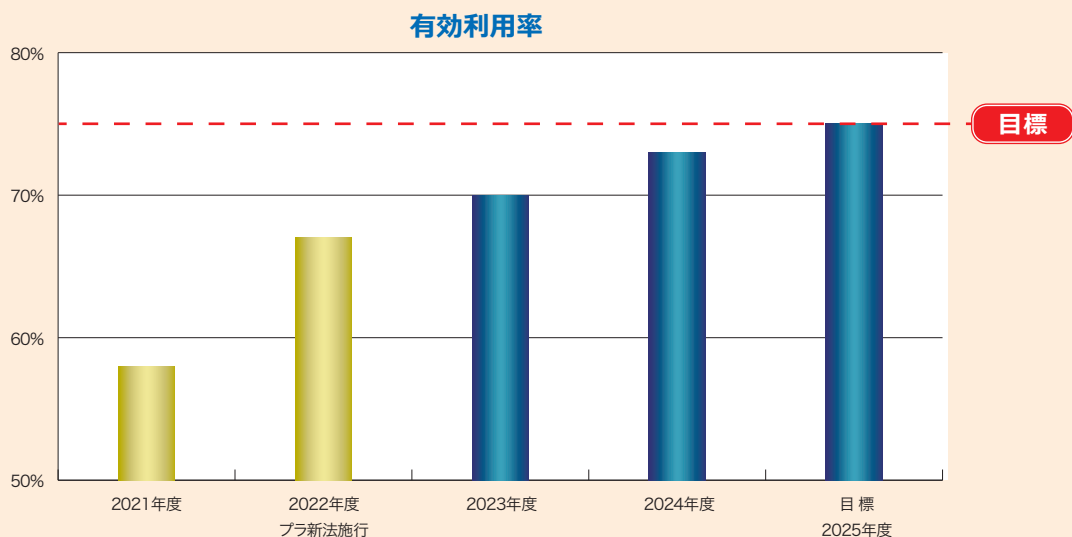
## 省資源・廃棄物削減の取組み

### ● 廃プラスチック削減の取組み

海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化への対応から、2022年4月1日にプラスチック資源循環促進法が施行されました。法律の基本原則・基本方針に従い、中期経営計画の廃棄物最終処分量の最終目標年度2025年度に合わせる形で、有効利用率を目標設定し、廃プラスチックの排出抑制・再資源化を進めています。2022年度は、焼却、埋立処理していた廃プラスチックの処理方法をサーマルリカバリーなどの処理方法へ変更を進めたことから、有効利用率が前年比9.0%増となりました。2023年度も引き続き、廃棄物最終処分量を削減するため、排出抑制と再資源化への取組みを進めていきます。そして、この取組みが、気候変動の抑制や生物多様性損失の低減へつながるものと考えています。

国内5工場における廃プラスチックの処理状況

	2021年度	2022年度 プラ新法施行	2023年度	2024年度	目標 2025年度
最終処分量 (t)	1134	948			625
再資源化量 (t)	1544	1895			1875
廃プラスチック排出量合計 (t)	2678	2843			2500
有効利用率	58%	67%	70%	73%	75%



排出量の抑制については、軽量化・素材変更など製品設計に、時間はかかりますが、計画的に粘り強く進めてまいります。商品化に至ったものは、環境関連商品として紹介する予定です。

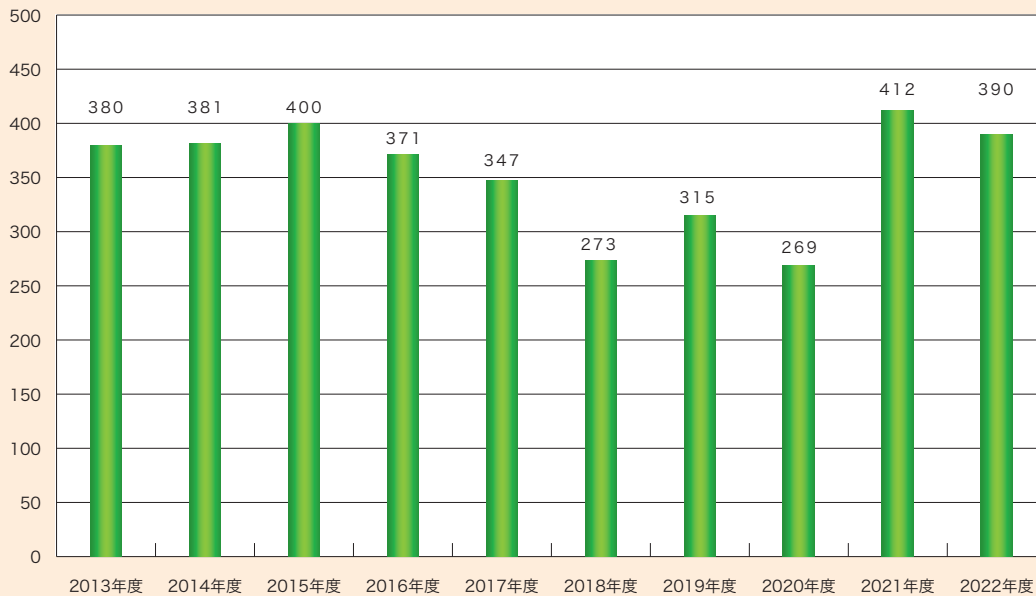
# 2022年度 環境負荷低減の取組み

## 化学物質排出削減の取組み

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）に従い、製造工程で使用している化学物質の環境への排出量の届出を行うとともに、削減に努めています。2022年度は、滋賀工場にRTO処理設備を導入したことにより、排出量が前年度比5.4%減少、移動量は1.4%増加に抑えることが出来ました。

2023年度は、中長期計画目標である2016年度比排出量35%削減を目指し取り組んでいきます。

### PRTR対象物質総排出量（トン）



### PRTR対象物質総移動量（トン）



# 2022年度の事業活動における 環境負荷の全体像（マテリアルフロー）

当社企業活動・生産活動のために投入した原材料、エネルギー、水資源（INPUT）に対して、各種排出物（OUTPUT）から環境負荷を把握し、効率的な事業活動による資源の有効活用に取り組んでいます。

2022年度は、CO<sub>2</sub>排出量削減目標が、達成出来ました。

2023年度は、産業廃棄物の最終処分量をさらに削減し、資源の有効活用に取り組んでまいります。

INPUT	
<b>エネルギー使用量</b>	14063kℓ(原油換算)
電力(買電)	29569 MWh
LNG	1567 ton
都市ガス	3465 千m <sup>3</sup>
A重油	528 千ℓ
LPG	26 ton
ガソリン	7 千ℓ
<b>水使用量</b>	528 千ton
地下水	382 千ton
工業用水	153 千ton
上水	47 千ton
<b>原材料総投入量</b>	35064 ton

事業活動

## ダイニック製品群

出版文具関連  
情報関連  
不織布関連  
衣料関連  
住宅・インテリア関連  
工業用途関連  
特殊材料加工  
包材関連

OUTPUT	
<b>温室効果ガス(CO<sub>2</sub>排出)</b>	
生産からの排出	24976 t-CO <sub>2</sub>
製品物流からの排出	1193 t-CO <sub>2</sub>
※製品物流は 関連会社に委託しています。	
<b>大気への排出</b>	
PRTR対象物質	390 ton
NO <sub>x</sub>	18.1 ton
SO <sub>x</sub>	0.4 ton
ばいじん	0.3 ton
<b>水系への排出</b>	
排水量	470 千ton
BOD	0.5 ton
COD	1.4 ton
<b>土壌への排出</b>	
	なし
<b>化学物質(PRTR対象物質)</b>	
環境への排出	390 ton
廃棄物としての移動	214 ton
<b>廃棄物総発生量</b>	
焼却・埋立処分量	1162 ton
リサイクル量	2269 ton
有価物量	1691 ton
リサイクル率	77 %

# 環境関連商品

ダイニック株式会社は社会の発展や、より豊かな暮らしの創造に貢献するさまざまな商品の開発に、鋭意取り組んでいます。そしてそのような新商品を社会に提供することが、事業を通じた社会への貢献につながるものと考えています。当社では、「地球環境と生活環境に配慮した商品」を環境関連商品と定義しています。

## 地球環境に配慮した商品

### 【環境への負荷を低減した商品】

#### ■ 脱塩ビ・脱プラスチック・脱溶剤各種商品

非塩ビファイル（エコファイル）、オレフィン系クロス、※紙製磁気カード、EVAコンテナ、ファイル・バインダー・手帳用表紙クロス水性化 等

#### ■ 再生紙、再生繊維、再生樹脂を使用した各種商品

再生紙使用紙クロス、教科書用紙クロス、背貼り用紙クロス、※再生ポリエステル使用カーペット、※再生ポリエステル使用ニックセブン（シータス）等

#### ■ 持続可能な天然資源を使用した商品

※バイオマス認証インクリボン（BMC1）、※FSC認証紙クロス（エパロン）、レーヨン100%等カラー不織布（パネロンカラーシート）等

### 【処理処分を考慮した商品】

#### ■ 廃棄のし易さを考慮した商品

ラップ・アルミホイルのカット用紙刃、乳飲料・紙蓋材等

#### ■ 省資源・3R(Reuse,Recycle,Reduce) に貢献する商品

ストレッチ壁紙、トナーカートリッジ再生、詰替え用サブカセット、自動車天井内装材(軽量化)、有機EL乾燥剤(長期使用性)等

## 生活環境に配慮した商品

#### ■ 快適な空間を提供する商品

パネロン脱臭フィルター、抗菌消臭壁紙、抗ウイルス壁紙、空気清浄機用フィルター材、不織布床防音材 等

#### ■ 健康・食品の鮮度保持に役立つ商品

耐水食品包材、食品鮮度保持剤、※エコテックス認証（熱転写インクリボン、ニックセブン表示用ラベル）、パップ材の離型フィルム等

#### ■ 抗菌・消臭を付与した各種商品

抗菌装丁用クロス 等

※印の商品は第三者認証商品です

環境関連商品売上高占有率 (%)



◎ これら環境関連商品の個別の内容説明は、当社ホームページに掲載していますのでご覧ください。

当社は「環境関連商品で社会に貢献する」をキーワードに積極的に商品の開発を行ってきました。2022年度の環境関連商品の当社売上に占める比率は34.0%で目標を達成出来ませんでした。これからも、人の健康と環境に配慮した環境関連商品売上高占有率を上げてゆくことで、社会に貢献してゆきたいと考えております。



# 環境配慮商品の紹介

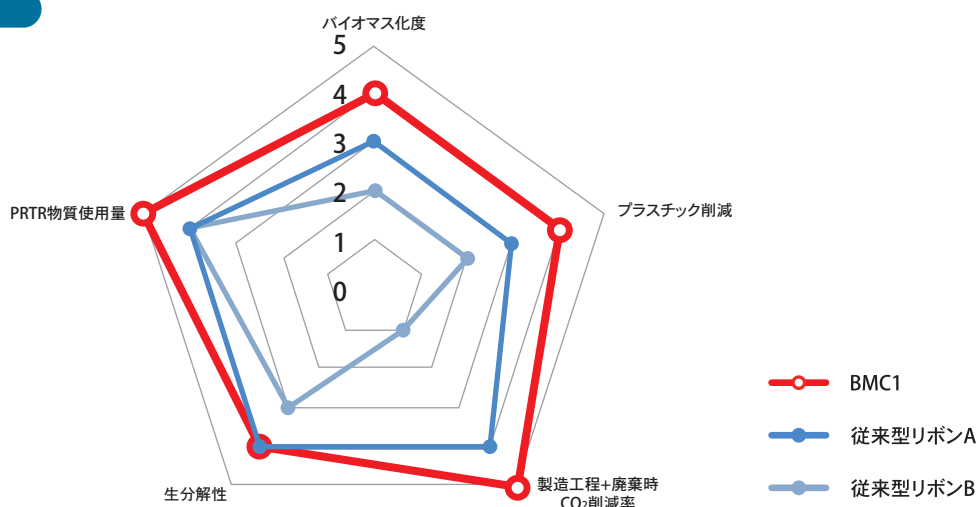
## 熱転写インクリボン BMC1

～～こんなところが環境にやさしい～～

基材プラスチック量を20%削減  
 インクの主成分を植物由来へ・・・バイオマスマーク認定商品



### 比較チャート



### 評価尺度

各項目について5段階で評価しています。

バイオマス化度	製品インク部分に含まれるバイオマス原材料の比率（1：少ない～5：多い）
プラスチック削減	インクを保持しているPET基材の厚み（1：厚い～5：薄い）
CO <sub>2</sub> 排出削減率	製品製造及び製品廃棄時のCO <sub>2</sub> 排出量（1：多い～5：少ない）
生分解性	生分解性材料の使用率（1：少ない～5：多い）
PRTR 物質使用量	製造工程で使用しているPRTR 対象物質質量（1：多い～5：少ない）

### 評価実績

評価項目	評価点	評価結果
バイオマス化度	4	50%以上
プラスチック削減	4	従来型リボン比20%削減
製造工程 + 廃棄時 CO <sub>2</sub> 削減率	5	10%以上削減
生分解性	4	25%～50%
PRTR 物質使用量	5	50%削減

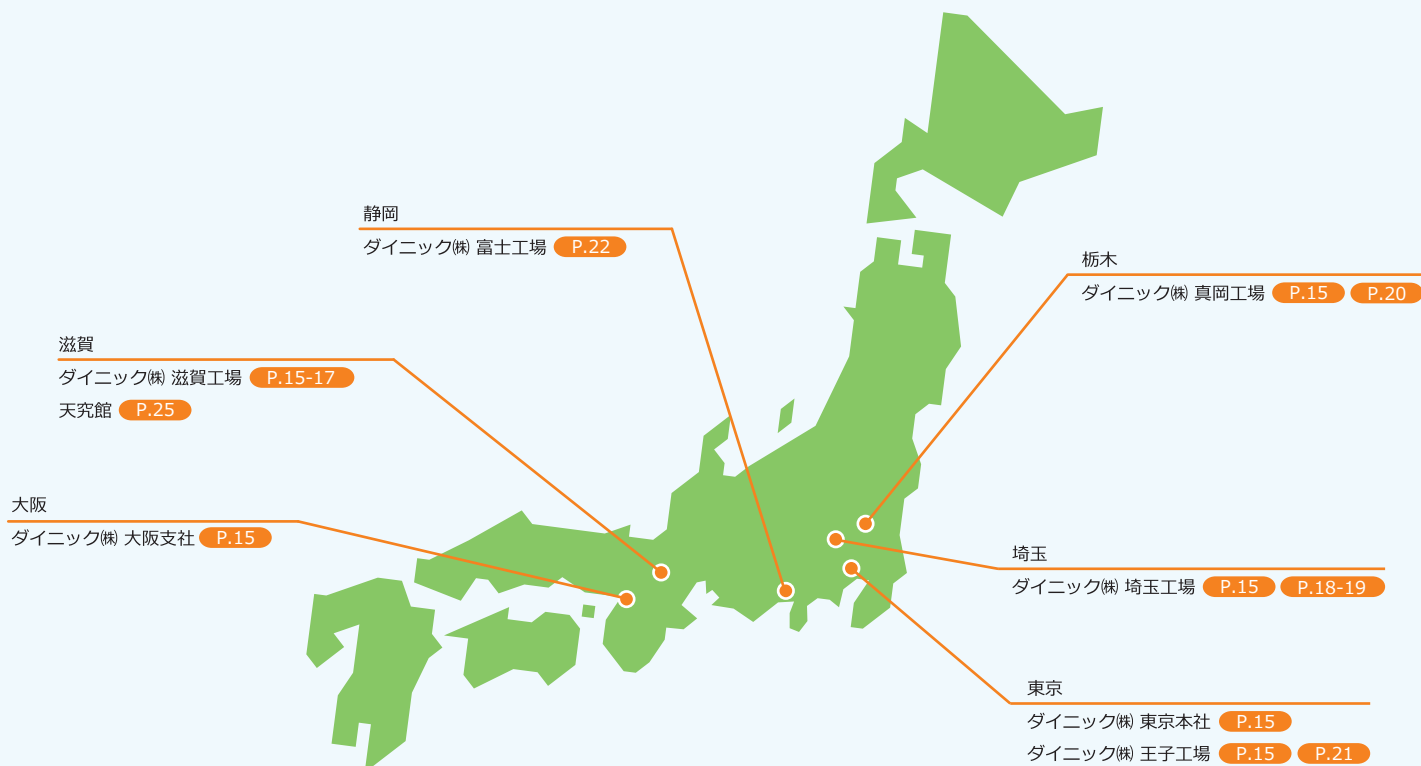
お問い合わせ先

情報関連

TEL:03-5402-3137 FAX:03-5402-3149

# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## 活動状況を紹介している国内拠点



## 活動状況を紹介している海外拠点



# サステナビリティへの取り組み報告

## 2022年度 CDP・TCFD 勉強会 活動報告

ダイニックは、2023年3月に新たな中期経営計画として「SOLID FOUNDATION 2026」を策定しました。この計画において、環境関連分野は「気候変動対応」や「生物多様性保全への取り組み」を重要項目としています。

これらの項目にかかわる「リスクと機会が当社の事業活動へどのような影響を及ぼすのか」という情報を金融市場に対し開示していくことが、環境課題に関する透明性担保による課題解決につながると考えています。

2022年度は、暮らしを豊かに彩る企業としての基盤を築き上げ、事業活動に影響を及ぼす「気候変動のリスクと機会」を積極的に収集・分析することを目的に、全社（主要事業所・全工場）で勉強会を実施し、環境部門との情報共有の場を設ける取り組みを行いました。

2023年度は、「暮らしを豊かに彩る企業」としての基盤を築き上げるため、勉強会で得た内容をさらに深化し「For The Customer」を合言葉に、具体的な行動と情報開示につなげていきます。

### ● リスクと機会について全社で勉強会



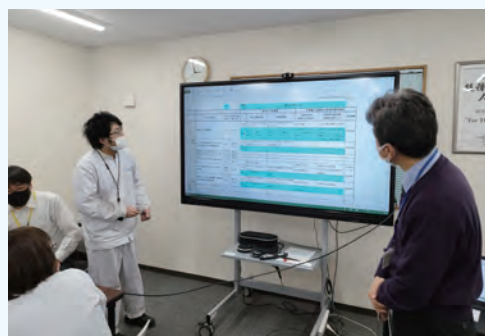
◀東京本社



◀大阪支社



◀埼玉工場



◀真岡工場



◀滋賀工場



◀王子工場

気候変動によるリスクと機会をテーマとして討議する機会は今回初めてでした。

各回とも予想以上に積極的な意見が参加者から提起され、拠点ごとではありましたが、課題を共有できました。このことは持続的な企業活動を考える上で貴重な時間になったと思います。

# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## 滋賀工場 ～ハイテクと自然との調和をめざすモデル工場～

滋賀工場は、琵琶湖水系の清らかな水と澄んだ空気が育んだ緑の山々に囲まれた、約35万平方メートルという広大な敷地を持つダイニック最大の工場です。ここではダイニック独自の高度なテクノロジーをバックボーンにして、ブッククロス、通帳用クロス、壁紙、織物芯地、有機EL用水分除去シート、床用吸音材などのダイニックの主要製品の数々が生産されています。豊かな自然環境の恩恵を受けたこの工場はまた、自身も自然環境との調和、およびその保全を重視してきました。排水処理を完備し、資源のリサイクル活用にも力を注ぎ、省エネ・無公害をテーマとしたモデル工場として高い評価を得ています。



### 環境指数の実績

項目	エネルギー原単位 (kℓ/km)	CO <sub>2</sub> 排出量(t)	水資源投入量 (千t)	総廃棄物量(t)	最終処分量(t)	PRTR対象物質 排出量(t)
実績	0.069634	9515	156	1985	413	5
前年比	+13.4%	-2.2%	-17.0%	+21.6%	-22.8%	-85.3%

## 環境負荷低減のために ～再生可能エネルギーの活用～ カーボンニュートラルへの取組み

### ●太陽光発電パネル設置

滋賀工場に隣接する遊休地（ゴルフ場跡地）を利用して、設備容量 2,547KW の太陽光発電パネルを設置し稼働しました。カーボンニュートラルに向け、再生可能エネルギーの普及に協力しています。盛り土や砂利引きを抑制し、外来種移入防止など生物多様性へも配慮して施工しました。



2022年10月稼働開始

### ●ロータリー式蓄熱燃焼排ガス処理装置

滋賀工場の環境負荷低減の取組みとして、蓄熱燃焼式排ガス処理装置を導入しました。高い排ガス処理性能と排熱を利用した熱交換器の採用により燃料消費量を低く抑える事ができる、環境とエネルギー効率の両方に優れた装置です。また、設備側からの排ガスの漏れを低減する事で作業環境改善にも貢献しています。



2022年5月稼働



# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## 生物多様性保全への取組み・地域とともに

### ●ゴミゼロ清掃活動

滋賀工場の地元多賀町では、滋賀県が環境美化の日と定める5月30日（ゴミゼロ）の前後に清掃活動を毎年行っています。

当社もこの活動に賛同し、5月29日（日）に、多賀町の国道306号線沿いのゴミゼロ清掃活動に今年も14名が参加しました。



### ●森林保全活動

10月22日（土）に多賀町高取山ふれあい公園で開催された公益社団法人滋賀県環境保全協会主催の「森林整備ボランティア活動」に今年も当社から9名が参加しました。

枝打ち作業、雑木の伐採・整理、下草刈りの森林整備を行い、清々しい汗を流しながら自然と触れ合うことができ、良い経験となりました。



# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## 埼玉工場 ～未来志向の高度な複合技術と最新のFAライン～

ダイニックの東の生産拠点である埼玉工場は、技術開発に力をおいた未来志向の工場として稼動しています。高度な複合技術と最新の自動化・FA（Factory Automation）ラインを駆使して、情報業界の最先端を支えるハイテク製品から、生活に密着した産業製品まで幅広く網羅。その生産体制は6つの工場から成り立っており、それぞれ紙クロス、ビニルクロス、ターポリン、インクリボン、FFC（ファインフィルムコーティング）、カーペット、不織布を担当しています。地域・環境対策にも怠りはなく、緑化推進や産業廃棄物のリサイクルシステムは、公共機関などからも高い信頼をもって認知されています。



### 環境指数の実績

項目	エネルギー原単位 (kℓ/km)	CO <sub>2</sub> 排出量(t)	水資源投入量 (千t)	総廃棄物量(t)	最終処分量(t)	PRTR対象物質 排出量(t)
実績	0.422533	11264	266	1976	498	361
前年比	-2.0%	+1.6%	+1.2%	-3.1%	-17.4%	+12.4%

### 環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入～ 低炭素の取組み

#### ● 高効率型空調機の導入

会議などで使用している研修室の空調機を高効率型に更新しました。効率の高い空調機への更新により、省エネ効果を見込んでいます。



### 環境負荷低減のために ～エネルギーロス削減～

#### ● 熱効率改善／放熱ロス低減

熱媒油配管系統保温材（グラスウール）のメンテナンス施工を行いました。熱媒油配管からの放熱ロス低減による省エネ効果を期待しています。





# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## 生物多様性保全への取組み

### ●地域とともに

埼玉工場では毎月1回、工場周辺道路の清掃活動を行っています。2022年度は合計12回実施し、タバコの吸い殻や飲料ボトルなどを回収しました。



### ●特定外来種への対応

埼玉県が実施した県民参加の「クビアカツヤカミキリ発見大調査」に協力し、敷地内の樹木の調査を行いました。敷地内のサクラやウメで被害を確認し、関係自治体に通報しました。

クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) は繁殖力が強く、北関東でも分布を拡大しています。サクラの他、ウメやモモなどの果樹に侵入し、被害木を枯死させてしまうこともあります。(写真左：オス、写真右：メス)



幼虫は侵入した樹木の木部を摂食しながら、茶色のフラス(フンと木くずが混ざったもの)を排出します。敷地内のサクラにおいても、フラスの発生が確認されました。

成虫は25～40mm程度の大きさで、黒色で首の部分が赤いところが特徴です。

特定外来生物に指定されており、施設管理者や自治体への連絡が必要です。なお、移動力のある成虫は見つけ次第駆除することが推奨されています。



# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## 真岡工場 ～管理のゆきとどいた作業環境で、安全な品質をお届けしています～

真岡工場は、アルミ箔蓋材をはじめ急速に多様化する蓋材のニーズに対し、アルミ箔加工の技術基盤を活かし、フィルムとの複合蓋材への対応を実現して、食品や産業用の軟包材分野で厚い信頼をいただいています。

保有技術のいっそうの活用をはかり、「つぎ」へのチャレンジを行なっています。



### 環境指数の実績

項目	エネルギー原単位 (kℓ/km)	CO <sub>2</sub> 排出量(t)	水資源投入量 (千t)	総廃棄物量(t)	最終処分量(t)	PRTR対象物質 排出量(t)
実績	0.008260	2115	140	611	111	22
前年比	-6.8%	+1.3%	+11.0%	-7.0%	-20.3%	+15.8%

### 環境負荷低減のために ～エネルギーロス削減～

#### ●蒸気配管系統更新

真岡工場のグラビア印刷機に設置されている蒸気ドレーン配管用のトラップ9台を更新しました。トラップ更新により、ウォーターハンマーなどのトラブルを防止でき、蒸気漏れ量低減による省エネなどの効果が出ています。



# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## 王子工場 ～確かな品質管理で、信頼を得ています～

王子工場は、アルミ箔蓋材と塗工紙を製造しています。アルミ箔蓋材は、英国より「レクタラシール(登録商標)」(加工アルミ箔による容器封緘材)の技術を導入して以来この分野での高いシェアを獲得してきました。これは、容器に高周波で加熱して接着する独自の技術であり、食品などの蓋材シール方法としては画期的なものとして、お客様の商品の品質保持に役立っています。

また、塗工紙・フィルム分野では、豊富なノウハウを基盤に最新の大型塗工機を駆使して、多様化するニーズに対応しています。私たちは、常に時代を先取りした多彩な加工技術で、「つぎ」へのチャレンジを行なっています。



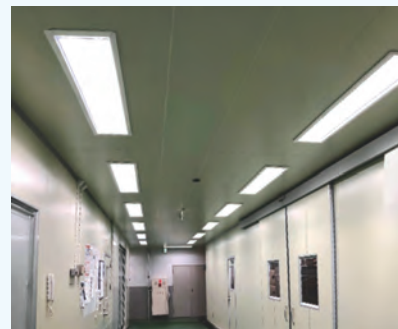
## 環境指数の実績

項目	エネルギー原単位 (kℓ/km)	CO <sub>2</sub> 排出量(t)	水資源投入量 (千t)	総廃棄物量(t)	最終処分量(t)	PRTR対象物質 排出量(t)
実績	0.040996	1660	19	466	131	1.8
前年比	-5.0%	-4.4%	-1.5%	-5.0%	-11.5%	-95.3%

## 環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入～

### ●照明のLED化

クリーンルーム内の照明をLEDに更新しました。これにより年間13tのCO<sub>2</sub>排出量削減を見込んでいます。





# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## 富士工場 ～再生の出来る環境に優しい製品を作り出しています～

富士工場では、クリーンな作業環境と厳しい品質管理のもとで食品用の紙管容器、産業用（発炎筒）紙管などを製造しています。地球環境にやさしい素材の追求で、「つぎ」へのチャレンジを行っています。



### 環境指数の実績

項目	エネルギー原単位 (kℓ/km)	CO <sub>2</sub> 排出量(t)	水資源投入量 (千t)	総廃棄物量(t)	最終処分量(t)	PRTR対象物質 排出量(t)
実績	0.000531	295	1	84	9	0
前年比	-2.6%	+27.3%	-19.7%	-10.0%	+57.3%	—

※富士工場では、PRTR法の対象物質を法基準を超えて取り扱っていません。

### 環境負荷低減のために ～再生可能エネルギー導入～

#### ●太陽光発電パネル導入検討中

工場建屋屋上へ太陽光発電パネルの設置が可能か、検討を行いました。今後、採算性等の評価を行う予定です。



# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## DYNIC USA CORPORATION

1988年、米国・オレゴン州ヒルズボローに設立。バーコード用サーマルトランスファーリボン・タグ用ファブリックシートなどを製造・販売、北米・中南米に輸出しています。

### 本社・工場

4750 N.E.Dawson Creek Drive, Hillsboro,  
Oregon 97124, U.S.A

TEL: 1-503-693-1070 FAX: 1-503-648-1185

<https://www.dynic.com/>



### 環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入～



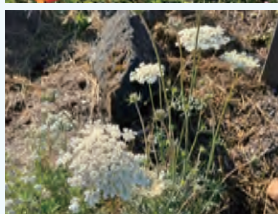
#### ●ボイラー更新

2023年2月にボイラーを更新しました。  
新しいボイラーの稼働により、天然ガスの月平均使用量を約35%削減できると期待しています。  
これにより原油換算で年間210KL、CO<sub>2</sub>排出量410tの削減を見込んでいます。

### 生物多様性保全の取組み

#### ●湿地保全活動

2022年10月、コロナ禍で中止になっていたジャクソンボトム（Jackson Bottom）の清掃活動が3年ぶりに実施されました。ジャクソンボトムはオレゴン州ヒルズボロ市にあり、257ha（635エーカー）の面積に様々な動植物が生息する湿地保護区です。DYNIC USAは、1997年から20年以上にわたり、この活動に参加しています。





# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## DYNIC(UK)LTD.

1989年、英国・ウェールズに設立。サーマルトランスファーリボン・ケアラベルを加工・販売、ヨーロッパ・アフリカに輸出しています。

### 本社・工場

UNIT7 Trident Business Park, Ocean Way, Cardiff,  
CF24 5EP, Wales, UK.

TEL:44-29-2048-3973 FAX:44-29-2048-6706

<https://www.dynic.co.uk/>



### 環境負荷低減のために ～電気自動車・ハイブリッド車へ～



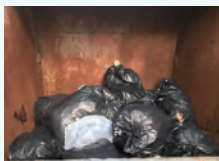
#### ●電気自動車・ハイブリッド車へ更新

2022年1月より、DYNIC UKの所有する社用車（ガソリン車4台）を、電気自動車（1台）・ハイブリッド車（3台）へ順次更新しました。

ガソリンを燃焼させて走る自動車から排出される温室効果ガスの主なものは、NOx（窒素酸化物）・CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）です。環境負荷低減と地球温暖化緩和の対策として温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

### 環境負荷低減のために ～廃棄物 再資源化モデル工場～

#### ▼焼却ゴミ



#### ▼紙類



#### ▼木くず



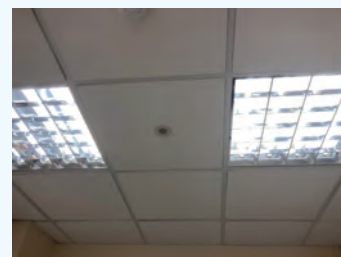
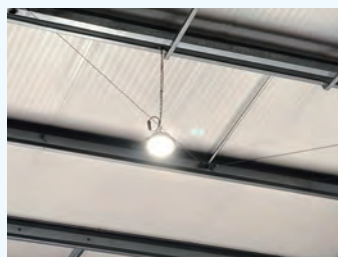
#### ●廃棄物の再資源化徹底

DYNIC UKでは、事業を通じて発生する廃棄物を「紙類、木くず、焼却ゴミ」の3種類に分別し処理しています。紙類は再生紙へマテリアルリサイクルを、木くずはバイオマス由来燃料へ再資源化を、焼却ゴミは焼却で発生する熱を回収しサーマルリカバリーを行っています。可能な限り再資源化・再利用を行い、ゴミゼロ工場を目指して活動しています。

### 環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入～

#### ●事務所・工場内の照明のLED化

工場内天井照明をLED化（写真 左）するとともに、事務所内照明をセンサー付きLED（写真 右）へ更新しました。



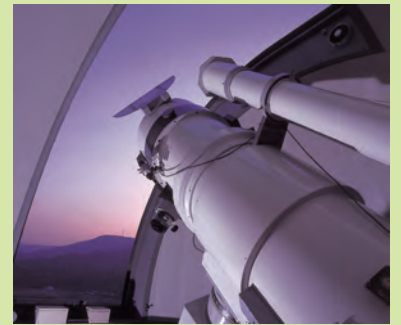


# 2022年度 拠点ごとの活動状況

## アストロパーク天究館

ダイニックアストロパーク天究館は、口径60cmの反射望遠鏡と各種観望機器を備えた民間企業初の公開天文台です。

創業以来、ブッククロスを通じて文化・教育の分野に深く係ってきたダイニックが社会貢献と文化活動の理想として1987年に開設しました。



### テレビ・新聞などでの広報活動紹介

#### ●天究館が、テレビ放送や新聞で紹介されました。

小惑星「アケボノゾウ」命名記念の式典が2022年7月7日に多賀町立博物館において執り行われ、滋賀工場長から多賀町長へ命名報告書が手渡されました。当日は七夕で多賀町の幼稚園児や町関係者らと星になった「アケボノゾウ」を祝い、地元テレビ放送局や新聞に掲載していただくなど、活動を紹介していただきました。



#### ●小惑星「アケボノゾウ」の命名

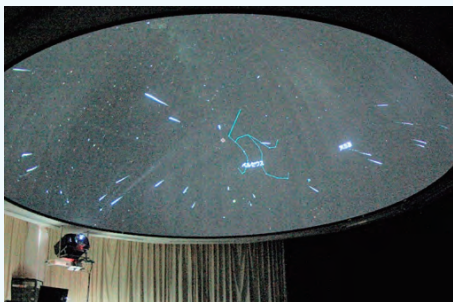
1993年3月、アストロパーク天究館から東に700m離れた工業団地造成地で、100万年～250万年前に生息していたアケボノゾウの全身骨格化石が発見されました。

アケボノゾウの全身化石発掘例は非常に少なく、現在この化石は多賀町の博物館に展示されています。このアケボノゾウの化石が天然記念物に指定(2021年)されたのを機に、天究館が1993年4月に発見し命名権留保していた小惑星を「アケボノゾウ」と命名しました。

### 天体観望会

#### ●デジタルプラネタリウム

当社創立100周年を機に導入した本格的なデジタルプラネタリウムも引き続き大好評です。

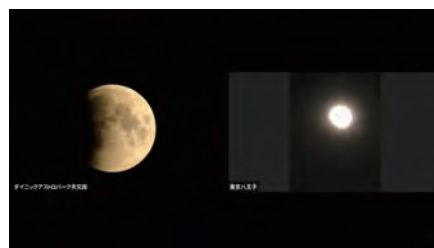


▲夏のペルセウス座流星群出現のシミュレーション。

天究館では毎週土曜日に開催する定例天体観望会のほか、天体イベント(皆既月食や流星群など)に応じて開く「随時天体観望会」などを開催しています。

11月8日(火)には、皆既月食中に、天王星が月に隠れる天王星食も見られる大変珍しい現象があり、これまでに構築したリモート天文台観測システムを活用し、新たな試みとして、インターネットを利用したライブ中継も行いました。

新型コロナウイルス対応のための制限が無い期間であれば、プラネタリウムや天文台の望遠鏡を使用し、専門スタッフが案内する定例天体観望会を開催しています。



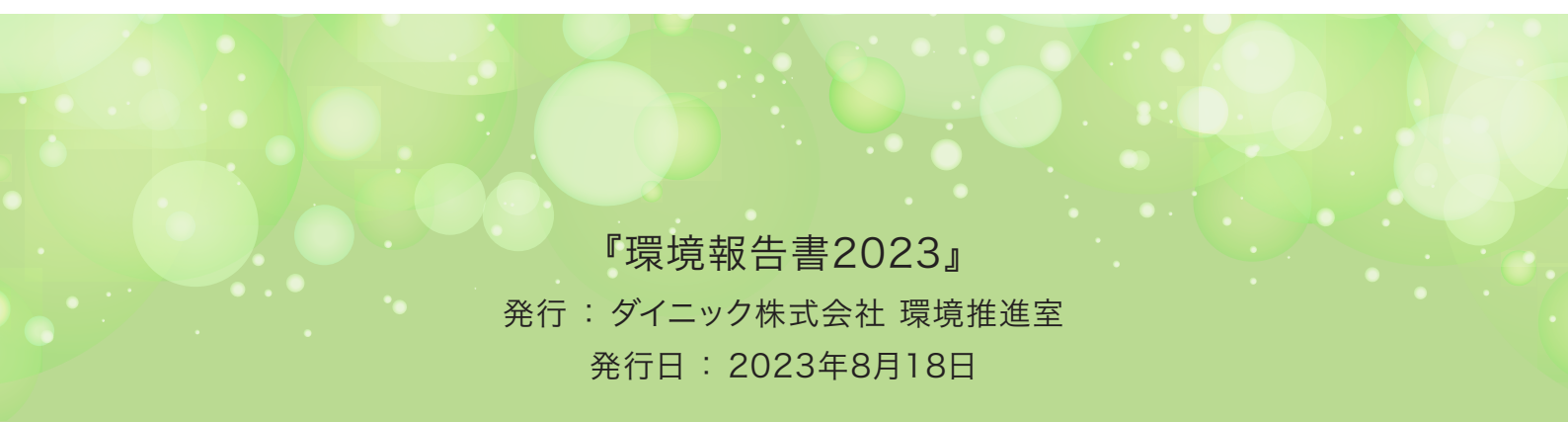
#### 定例天体観望会

毎週土曜日 19:30 ~ 21:30

<観望料>

小中学生: 100円

高校生以上: 200円

A decorative horizontal band at the bottom of the page features a light green background with a bokeh effect of soft, out-of-focus circles in various shades of green and white.

## 『環境報告書2023』

発行：ダイニック株式会社 環境推進室

発行日：2023年8月18日